





# お念仏の日暮し

よく、「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、鞍岡では「暑さはお盆まで」ですね。お盆が過ぎ、あつという間に秋めいてきて、気温もぐつと下がってきました。特に、九月四日の最低気温は十四、最高気温も二十五で、初秋というより晩秋の気候を思わせる気温でした。(地上デジタルNHKG放送のデー夕運動による鞍岡アメダスのデータ)

ファンヒーターのお世話になる日も近い気がします。

そんなお盆も過ぎた八月下旬、二名の方がお亡くなりになりました。

お別れはつらく、きびしく、悲しいものですが、お念仏のお育てをいただかれてのご往生。

さどりの智慧をいただかれたお二人は迷える私たちのために浄土からこの娑婆に還り来て、この身に寄りそい、この身を見守り、そしてお導きくださいます。

私たちは縁あって、阿弥陀さまをご本尊とする浄土真宗が宗旨の家に生まれ、幼少より、お仏壇の前に座り、手を合わせ、お念仏申させていただくご縁をたまわっています。

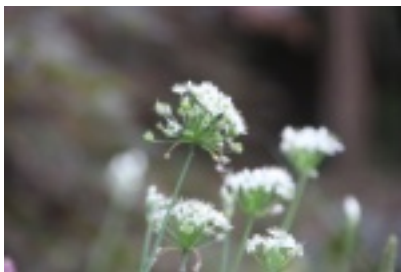
しかし、多くの場合、成長し、育った家から巣立つ時、お仏壇のない生活を送るようになりま。成人するとやがて伴侶を得て家庭を持ちますが、その家には小さい頃当り前のようにあったお仏壇が、何故か無い、そんな環境で過ごしていきます。

そのうち子育ても終わり、とも白髪と、苦勞も喜びも分かち合ったつれあいが亡くなる日が必ず来ます。

その別れを縁にお仏壇を迎え、小さい頃当り前のように手を合わせ、お念仏を申していた生活が再び訪れます。

その、手を合わせ、お念仏申させていただく日暮らしを、では、いったいどのようなつとめさせていただけばよいのでしょうか。

八月三十日にご往生なさいました白瀧龍雄さまは十六年前に最愛の奥さまと死別され、そのお別れを縁として、お仏壇をもとめ、お仏壇にお参りする日暮



らしをつとめられました。

お子様方はそれぞれご家庭を築かれ、別々のご家庭でしたので、一人暮らし。当然、仏さまのお給仕は自分の仕事。お仏飯、お花、そしてお仏壇の掃除など、一年に一度しかつかがいませんでしたが、きちんとしたお給仕の様子がかがえ、奥さまのお別れから阿弥陀さまのお慈悲に再び出会い、しつかり、お育てをいただかれていたようです。

亡き人を偲ぶことで仏さまとのご縁をいただくことは、理屈・理論ではなく、まさに阿弥陀さまのお慈悲が毛穴からこの身に染みこんでいくお育てです。それはとりもなおさず、地獄行き必定の身がお浄土に救われ、先に救われ、さどりの智慧をたまわったつれあいと再び出遇わせていただくご縁に育っていくのです。お念仏を申す日暮しは亡き人に私が捧げる善行(追善)ではなく、この私がお浄土に導かれる道だつとめさせていただきます。

# 法語の世界

## 〈原文〉

前々住上人へある人申され候ふ。開山(親鸞)の御時のこと申され候ふ。これはいかやうの子細にて候ふと申されれば、仰せられ候ふ。われもしらぬことなり。なにこともなにこともしらぬことをも、開山のめされ候ふやうに御沙汰候ふと仰せられ候ふ。

(蓮如上人御一代記聞書 百五十九)

## 〈現代語訳〉

蓮如上人に対して、ある人が「開山聖人が在世のころのことについて、「これはどういうわけがあつたことでしょうか」とお尋ねしたところ、上人は、「それは私も知らない。どんなことであれ、たとえ、わけを知らないことであっても、私は「開山聖人がなさった通りにするのである」と仰せになりました。」

## 仏事お休みのお知らせ

下記の日はお葬式以外の仏事は行いません。ご協力ください。

### 記

- 9月
- 22日 鞍岡小学校運動会
- 23日 秋季彼岸会法要
- 10月
- 26日 午後～27日 九州地区仏教壮年会(宮崎市)

